

あいさつ

福島県中学校教育研究会
保健体育部長 佐藤 力夫

はじめに、今年度の研究推進にあたりましては、限られた条件の中ではありましたが、充実した活動ができましたことに、各支部保健体育部長様と各会員のみなさまに、心より感謝を申し上げます。

さて、今年度、保健体育部では、昨年度までの研究の成果を踏まえ、今年度から3年間にわたり、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうあればよいか」を研究主題として掲げ、その1年次にあたる今年度は、「運動に主体的に取り組む態度や意欲を高める指導計画や学習過程の工夫～体育分野～」を副主題として研究に取り組んできました。

各支部においては、学校や地域、生徒の実態等を考慮し、生涯にわたる健康の保持増進や豊かなスポーツライフの実現の視点から、指導内容をより一層明確に吟味し、その内容を確実に身に付けさせるため、県主題研修会を受け、主題研修会報告会、研究実践、研究協議会での実践発表と協議等、計画的に研究を推進していただきました。

次に、今年度の福島県中学校教育研究協議会会津大会（保健体育部会）は、喜多方市立第二中学校での現地参集とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。喜多方市立第二中学校 渡部 泰子 先生と 小野里 武 先生に授業を提供いただき、研究協議会参加者には、事前に授業の様子を撮影した動画を視聴した上で当日の研究協議に臨んでいただきました。

研究協議の前半では、授業者の意図や工夫点の説明、質疑応答により活発な協議が行われ、研究

協議後半では、代表支部による副主題に迫るために行った研究実践の発表と、それに基づく質疑応答・協議が行われました。各支部の創意工夫が見られた実践例や貴重な資料について情報共有がなされ、深まりのある協議が展開され、限られた時間ではありましたが、充実した内容の研究協議会になりましたこと、大変嬉しく思いますとともに、開催準備から当日の運営全般にご尽力いただきました実行委員会の皆様、会場校として授業を公開していただきました喜多方市立第二中学校の皆様に深く感謝申し上げます。

また、保健体育ノート（福島県版）の編集につきましては、6月28日に第1回編集会議を開催しました。専門部副部長兼研究推進委員長の郡山市立宮城中学校長 宗像 克典 先生をはじめ、6支部の編集委員の先生方にご出席いただき、編集の基本方針に基づき、編集内容や方法を検討し、編集作業を進めて次年度の改訂版が完成しました。各支部・学校におかれましては、福島県版の保健体育ノートを採用され、授業の充実にご活用いただきますよう、お願いいたします。

次年度においても、感染症予防等、いくつかの制約がある中での活動になることも予想されますが、より充実した活動となりますようご理解ご協力をお願いし、あいさつといたします。

令和4年度県中教研研究協議会（会津大会）については、県中教研発行の「研究集録」をご覧ください。

「保健体育ノート」福島県版について

「保健体育ノート」福島県版は、学習指導要領の趣旨と福島県の先生や生徒の声を反映して編集しています。日常生活に役立つ読み物や、福島県や東北地方の資料を数多く掲載し、非常に充実した内容になっています。また、オリンピックに出場した福島県ゆかりのアスリートの紹介やオリンピックの豆知識など、生徒が関心を持てる内容になっています。

今後とも採用をお願いいたします。

令和5年度の研究推進 について

1 研究主題

『体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。』

○ 令和5年度副主題

「運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善」(体育分野)

2 令和4年度の研究成果と課題

今年度は体育分野において、運動に主体的に取り組む態度や意欲を高めるため、指導計画や学習過程の工夫について研究を深めた。各支部・各校においては、タブレット端末等のICT機器を活用して、生徒が主体的に運動に取り組もうとする態度や意欲を高めようとした研究が多く見られた。ICT機器を効果的に活用したことにより、生徒の「わかった。」「できた。」等の自覚を促すことができ、結果として運動に対する主体性が高められたのではないかと考えられる。

課題としては、様々な活用のしかたがある現在のICT機器について、その活用方法そのものについて、授業を担当する教師側が更に研修を深めていくことが大切であると考えられる。支部の中には、この点に重きを置きながら研究を進めた支部もあり、今後、参考になる取組の一例であるとも思われる。

3 令和5年度の研究副主題について

次年度は体育分野において、運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善について研究を進めていく。

子どもたちが各運動の特性や魅力に応じた課題を発見し、運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能及びスポー

ツライフを豊かにする知識等を活用して自らの学習活動を振り返りつつ、仲間とともに課題を解決し、次の学びにつなげていくことが大切である。仲間との協働的な学習を進めるためには、子どもたちが自らの課題や仲間の課題について思考し判断したことを言葉や文章、動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりすることが不可欠である。また、指導方法、手段が多様化する中、行った学習指導が、子どもたちの課題の把握や課題解決そして次の学びへの意欲向上に有効であったか、常に振り返ることが大切である。今後も指導と評価の一体化を図り、子どもたちの主体的な運動学習につながるよう学習評価についても改善を図っていく必要がある。

4 令和5年度の研究の内容と方法

(1) 研究内容

- ア 運動の特性等に応じた自らの課題や仲間の課題を明確に捉える指導の工夫について
- イ 既習事項等を活用しながら仲間とともに課題解決に取り組む指導の工夫について
- ウ 指導と評価の一体化を図り、主体的に運動学習に取り組もうとする意欲や態度を育てる評価の工夫について

(2) 研究方法

- ア 主題研修会、主題研修報告会を通して、副主題及び研究内容について共通理解を図り、各支部の実態に応じた研究を推進する。
- イ 支部ごとに研究内容の焦点化を図り、実態把握－仮説検証－考察の過程を踏まえて推進する。
- ウ 県研究協議会提出資料は、副主題にせまるために、どのように授業の改善を図ったか、指導の意図、生徒の活動や変容がわかるまとめ方とする。

県大会をいわき支部で 迎えるにあたって

県中教研保健体育部 いわき支部長
いわき市立久之浜中学校長 芦野 孝彦

来年度は、主題「体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうか。」副主題「運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善」（体育分野）に取り組む研究となります。

いわき支部は、学校数が39校あり、ほぼ全ての学校に中教研会員である保健体育科教員が配置されているため、ほとんどの学校で研究が可能であり、それぞれの学校での研究を持ち寄り、効果的な指導法や工夫点について、小グループで意見交換を行うなど、支部全体で授業力の向上に努めています。

今年度は、副主題「運動に主体的に取り組む態度や意欲を高める指導計画や学習過程の工夫」（体育分野）を受け、支部として掲げた重点事項に基づき、各学校、1学期中に授業を実践し、夏の研究協議会では、代表校による授業実践発表や教育事務所等の指導主事を招聘し、講義・演習の時間を開催。秋の研究協議会では、公開授業及び研究協議会を実施しました。公開授業を提供した玉川中学校が、来年度の研究発表会場校になり、2年間かけて臨みます。

一人ひとりの個性・資質を生かしながら、他者と協働する学習活動を展開し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指すとともに、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを考え、研究を進めることができると考えています。

次年度の福島県中学校教育研究協議会に備え、研究主題及び副主題に迫る実り多い大会となるよう準備を進めてまいりたいと思います。

～令和5年度会場学校紹介～

いわき市立玉川中学校長 角田 健司

本校は、いわき市の中部に位置し、東側には小名浜港、国道6号線、西側には常磐自動車道が通っています。生徒数は238名（1年：2学級、2年：3学級、3年：3学級、特別支援：1学級）の中規模校です。本校は、創立41年で昭和57年4月に小名浜一中から分離し設立されました。設立当初から「健康・勉強・奉仕」が校訓として掲げられ、「奉仕の精神」を柱とした校風と伝統が41年間脈々と受け継がれ今に至っています。

東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故から12年が経過し、復興が進んできましたが、幼い頃に震災を経験し、生活拠点をこちらに移し生活している生徒もおり、防災・減災教育、風評被害に負けず地域の良さを発信できる表現力の育成に力を入れています。また、新型コロナウイルスの影響も4年目に入り、「子どもたちの学びを止めてはいけない」という大原則のもと、様々な工夫をしながら教育を進めております。

授業力向上は我々教員にとって永遠の課題であり、本校では、研究主題として「生涯にわたってキャリアアップを目指していく資質や能力を育て、自ら学習に意欲的に取り組む生徒を育てるにはどうあればよいか」を掲げ、「生徒が意欲的に学習に取り組むことができるようにするための一人一人の教育的ニーズに応じた指導の工夫」を今年度の副主題として、研究を進めてきました。その中でも、授業におけるタブレットや電子黒板などのICT機器の効果的活用による個別最適化教育に力を入れています。体育授業においてもICT機器を活用し誰一人取り残すことなく全員が「分かった、できた」を実感できる授業を目指しています。県大会での体育授業公開を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



令和4年度保健体育部組織

支部名	支部保体部長氏名	部長所属校	庶務担当者氏名	庶務所属校	学校数	会員数
福島	◎ 佐藤 力夫	川 俣	佐藤 洋平	北 信	23	45
伊 達	佐藤 徳之	霊 山	遠藤 修治	霊 山	8	15
安 達	佐藤 克広	二本松二	泉 新吾	小 浜	11	22
郡 山	○★宗像 克典	宮 城	阿部 秀昭	宮 城	28	26
岩 瀬	齊藤 俊明	大 東	橋本 恵一	大 東	13	23
石 川	板橋 敬史	玉 川	斑目 駿	石 川	5	9
田 村	木幡 健	岩 江	布施 祥平	岩 江	9	15
東西しらかわ	○ 土屋 好二	西郷一	鈴木 亮太	西郷一	18	30
北会津	高橋 伸明	若松一	木村 仁根	若松一	14	20
耶 麻	○ 斎藤 一範	裏磐梯	古川 貴仁	裏磐梯	10	11
両 沼	高橋 祐一	坂 下	真壁 美里	坂 下	9	9
南会津	大内 進矢	荒 海	齋藤 聡	荒 海	7	14
相 馬	○ 佐藤 武	尚 英	紺野 江里	中村二	11	20
双 葉	長谷川 淳	双 葉	***	***	9	13
いわき	○ 芦野 孝彦	久之浜	星田 敬弘	勿来二	39	60
◎部長 ○副部長 ★研究推進委員長				合計	214	332

県中教研保健体育部会事務局

・庶務：佐藤洋平（北信）

・総務：仁井田侑子（川俣）

・会計：古川真理子（蓬萊）

令和4年度事業報告

5 / 19	県中教研総会・保健体育専門部会 ※県中教研主題研修会 (福島市)
5 / 下旬	主題研修報告会 (各支部)
6 / 28	第1回ワークブック編集会議 (郡山市)
7 / 下旬	支部中教研研究協議会 (各支部)
8 / 下旬	第2回ワークブック編集会議 (各担当者間の通信制)
9 / 下旬	研究推進委員会 中止 (郡山市)
10 / 6	県研究協議会会津大会 (喜多方二中・オンライン)
10 / 下旬	県研究協議会会津大会報告会 (各支部)
3 / 上旬	保健体育部会部報発行 (事務局)

令和5年度事業計画(案) ※正式には5月に決定

5 / 11	県中教研総会・保健体育専門部会 ※県中教研主題研修会 (福島市)
5 / 下旬	主題研修報告会 (各支部)
7 / 上旬	第1回ワークブック編集会議 (郡山市)
7 / 下旬	支部中教研研究協議会 (各支部)
8 / 下旬	第2回ワークブック編集会議 (各担当者間の通信制)
9 / 下旬	研究推進委員会 (郡山市)
10 / 5	県研究協議会いわき大会 (いわき市立玉川中)
10 / 下旬	県研究協議会いわき大会報告会 (各支部)
3 / 上旬	保健体育部会部報発行 (事務局)